

平成 28 年度 青山台留守家庭児童育成室の検証結果について

平成 29 年 6 月

吹田市教育委員会

地域教育部放課後子ども育成課

吹田市立青山台留守家庭児童育成室「ひまわり学級」（以下、「青山台育成室」とする）については、平成 28 年 4 月からこれまでの直営での運営から、社会福祉法人大阪キリスト教女子青年福祉会に業務委託している。

児童福祉法においては、事業に必要な水準を確保するために市町村による事業者への調査や命令等が定められており、運営業務を民間に委託している留守家庭児童育成室（以下、「育成室」とする）に関しては、直営で運営している育成室とは違い、前述のような観点から、放課後子ども育成課による検証を行い報告するものである。

～検証方法～

- 1 放課後子ども育成課職員〔担当事務職員、スーパーバイザー（元公立保育園保育士：SV）〕による現地視察（週 1 回程度）
- 2 保護者へのアンケート：年間 3 回
（1 学期利用について、夏休み 2 学期利用について、年間利用について）
- 3 事業者への聴き取り
- 4 チェックシートを用いた業務の履行状況の確認と評価

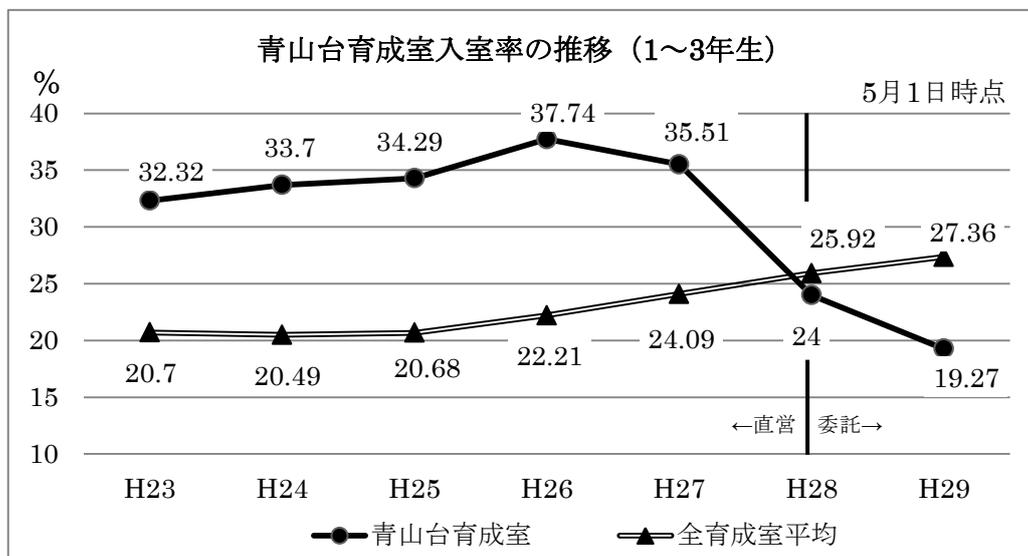
1 青山台育成室の児童数について

青山台育成室については、平成 28 年 5 月時点で 27 名在室しており、学年の内訳として 1 年生が 9 名、2 年生が 7 名、3 年生が 8 名となっており、モデル事業として行っている 4 年生以降の配慮を要する児童（障がい有児）が 3 名となっている。児童数については、吹田市立の留守家庭児童育成室の中で最も少ないものとなっているが、青山台小学校についても吹田市立小学校の中で最少の児童数の学校となっている。

2 青山台育成室への入室率（小学校児童のうち育成室を利用している児童の割合）の推移について

青山台育成室の平成 23 年度から平成 29 年度までの入室率は、【表 1】のとおりとなっている。青山台育成室については、例年、平均よりも高い入室率であったが、平成 28 年度からは入室率が下がってきている。入室率については、児童の友人関係や育成室の雰囲気、他の児童との関係等、様々な要因によって変化するが、運営の民間委託による影響も考えられるので、今後の推移について注意が必要である。（後述の「青山台育成室運営業務の民間委託による影響について」も参照。

【表 1】

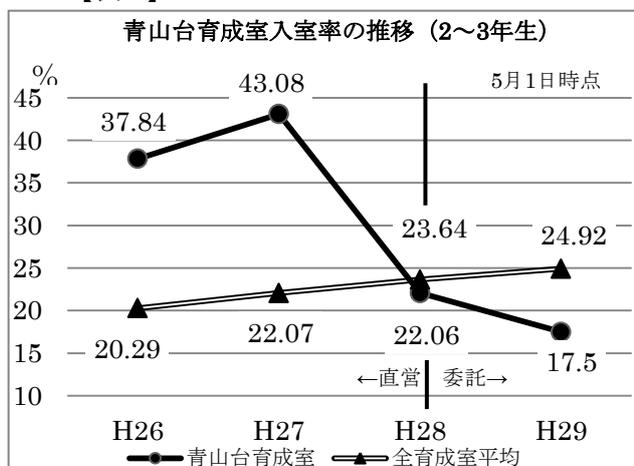


3 青山台育成室運營業務の民間委託による影響について

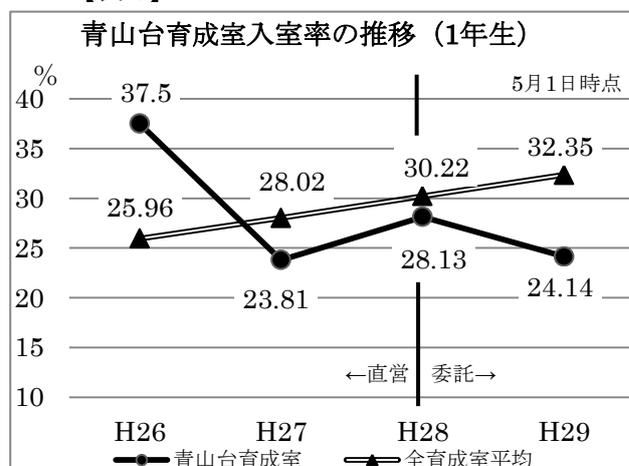
(1) 児童の入室率から見た民間委託の影響について

青山台育成室に限らず、育成室の運營業務を民間委託する際には、前年度中に放課後子ども育成課により、保護者への説明会を行っているが、説明会において、保護者からは「育成室での保育内容が変わってしまうことへの不安」、「指導員が一度に全員変わってしまうことへの不安」の声が多く寄せられていた。引継ぎ保育を行い、そのような不安をできるだけ解消するようには努めてきたものの、直営での運営から民間委託での運営の移行期に在籍した2～3年生については、児童の入室率が下回る結果となった（【表2】参照）。一方、入室当初から運営が民間委託となる1年生については、入室率は前年よりも上がる結果となった（【表3】参照）。

【表 2】



【表 3】



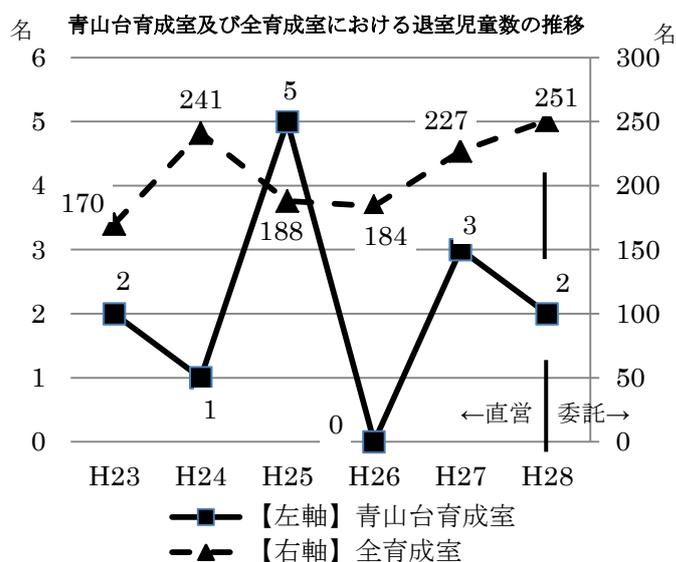
この傾向は、同時に運營業務の民間委託を開始している、他の育成室にも表れており、このことから、民間委託自体が不安なのではなく、指導員が代わることや、保育内容が変わるかもしれないことに対して不安があるものと推測される。

(2) 退室児童数から見た民間委託の影響について 【表4】

青山台育成室の年度途中の退出児童数の推移については、【表4】のとおりとなっている。青山台育成室については、年度による変動が大きいため、はっきりとした傾向はなく、また、民間委託が始まった平成28年度も、特にこれまでとは違う傾向も認められない。(また、全育成室の年度ごとの推移と比較した場合についても、同様である。)

民間委託が開始された平成28年度は、全育成室については、前年度より増加しているが、青山台育成室は減少している。

以上から、年度途中の退室児童数の推移からは、運営が民間委託になったことの影響は特にないものと思われる。



4 青山台育成室の指導員配置について

青山台育成室の指導員の配置については、1教室での運営であるため、教室に配置する指導員が2名となっている。また、配慮を要する児童に対する加配が3名必要であるため、1日当たり5名の指導員の配置が必要である。現在の委託事業者については、委託開始の初年度であり、育成室の雰囲気落ち着いておらず、児童同士喧嘩等のトラブルも数多く発生することより、独自に1名配置人数を多くして、1日当たり6名の指導員の配置を行っていた。勤務形態や保有資格等の内訳については、正規雇用の指導員が、主任指導員として1名、年度途中からはもう1名増員となり、正規雇用の指導員としては2名で運営をおこなっていた。それ以外の指導員については、非正規(アルバイト)指導員であり、正規雇用の指導員が毎日育成室に勤務するのに対し、非正規雇用の指導員については、1週当たり3日~5日のシフトを組み、勤務に従事していた。保有資格としては、正規雇用の指導員は、教員の資格を保有しており、非正規雇用の指導員についても半数は、保育士や教員、社会福祉士の資格を保有していた。

指導員間のチームワークは非常によく、様々な課題に直面した場合でも、主任指導員を中心として解決を図る姿勢が見られ、放課後子ども育成課の職員やSVとも積極的に連携を図り、育成室の保育内容の充実・向上を図る努力を感じることができた。

5 青山台育成室における保育内容について

(1) 日常の保育について

現在の委託事業者の指導員については、学童保育の経験はなかったため、引継ぎ保育を規定以上の回数を実施し、子ども達との関係づくりに努めていた。また、引き継ぎ書を利用して育成室でのイベントやおやつの種類、下校コース等を丁寧に確認し、できる限り直営での運営を踏襲するように努めていた。

青山台育成室は、特に当初の期間について、落ち着かない雰囲気があり、育成室全体が浮ついたような状態であったため、トラブルも多く児童同士のけんかも度々起こっていた。

指導員はそのようなトラブルの対応に追われる場面が多く、全体あそび等の取り組みによる集団づくりに十分な時間を割くことができず、自由あそびの時間が多くなっていたところがあった。指導員は、その中でも、小集団による自由あそびに積極的に関わっていき、児童との信頼関係構築に努めていたが、自由あそび中心では、集団づくりとしては不十分なところもあり、1学期については、子ども集団に、まとまりに欠けるところがあった。

その後、夏休みから2学期と経過するにつれて、育成室全体も次第に落ち着くようになっていき、保育面でも、自由遊び中心から、野球やサッカー等の集団あそびや、ボランティアによる紙芝居等、多人数での取り組みの機会を増やしていき、子ども集団の形成を図っていった。特に12月には「ひまわり祭り」という、入室児童が学年縦割りの班に分かれて、それぞれの班がボーリングや宝さがし、紙飛行機を使った的あてゲーム等を制作し、近隣の保育園、幼稚園の子ども達を招待し、一緒に楽しむイベントを開催し、他の育成室と同じような、集団づくりを軸として児童の健全育成を図る運営を感じ取ることができるようになった。

配慮を要する児童への保育についても、重点的な引継ぎ保育と、これまでの保育日誌や放課後子ども育成課SVによる助言等、様々な方法により、できる限り当該児童の混乱を生じさせない対策をとった結果、これまでのところ大きなトラブルも無く、おおむね良好に進めることができている。

(2) おやつの提供について

現在の委託事業者は、おやつの提供については、非常に気を使い、また、丁寧な対応がなされている。おやつのメニューを、アレルギーを有する児童への別メニューも含めて、事前に保護者に配付したり、産地や添加物への配慮だけでなく、一部、自然食品を提供する等、今後、取り組む必要がある事項について、先駆的に取り組んでいる。

しかしながら、(全ての育成室で同様のことは生じているが) おやつの量や好き嫌いの好みに関する要望は、保護者から上がっており、日々、試行錯誤しながらおやつの提供を行っている状態である。

(3) 宿題やその他事業者独自の学習活動（夏休みの英語体験や紙芝居等）について

青山台育成室における宿題の取り組みについては、「育成室に来たら、まず宿題を済ませる。」という方針で行っている。児童の早帰りの都合等の理由により、全員が宿題を育成室で終わらせているには至っていないが、入室児童は、こういった習慣は身につけており、保護者からの支持も得ている。1学期については、育成室全体の落ち着かない雰囲気や、子ども同士のトラブル等で、集中して取り組めないと言った保護者からの意見もあったが、2学期以降、育成室全体の落ち着きと共に、育成室内を「宿題をするスペース」、「自由に遊ぶスペース」等に座卓やマットで仕切ることにより、子ども達にとっても、わかりやすく、はっきりとした見通しが持てるようなスペースとなり、よりスムーズな宿題の取り組みが可能となっていった。

夏休みには、英語の歌をうたいながら、リズムに合わせて簡単なダンスをする取り組みや、2学期以降は、ボランティアによる昔ながらの紙芝居を行う等、事業者独自の取り組みもスタートさせており、子ども達も、これまでとは違った取り組みを楽しんでいる様子を見せている。

(4) 小学校・保護者との連携について

青山台育成室については、前述にもあるように、特に1学期において、育成室全体が落ち着かない雰囲気や、複数のトラブルが発生し、同時に対応が必要な場面も多くあった。そういったことについては、小学校とも連携し、放課後子ども育成課、委託事業者とが一体となり、対応を図っていった。お互いに情報を共有し、歩調を合わせて事態の収拾を目指し、小学校からは対応方法のアドバイスをはじめ、様々な協力を得ることができていた。

保護者との連携については、全体や個人の懇談会、連絡帳や電話などの複数の方法を用いて積極的に取り組んでいた。方法や回数等がこれまでとは違うこともあり、不十分な印象を持つ保護者もいたが、対応が必要な児童や家庭には、頻度を上げて対応していた等、丁寧な対応を行っている姿勢が見られた。

6 青山台育成室に関する保護者アンケートでの意見について

平成28年度中に、青山台育成室の入室児童の保護者に対して3回のアンケートを実施しているが、その集計結果を通して検証を進めていく。

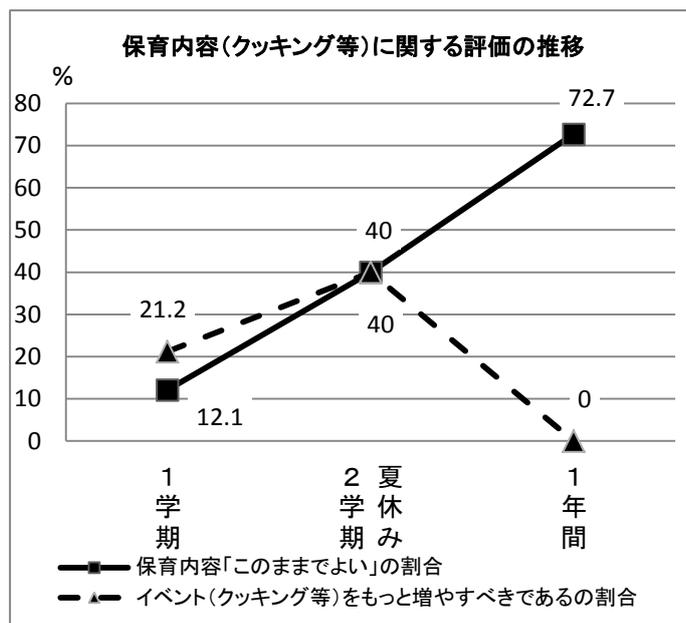
(1) 保育内容に関する保護者アンケートの結果について

育成室の運営にあたり、その保育内容については中核を担うものであり、児童と指導員の信頼関係を構築するためには、保育内容について質の高いものでなければならない。保護者アンケートにおける保育内容に関する質問の内、「保育内容全般」と、特に人気があるプログラムである「クッキング保育」についての推移を【表5】に示している。

この表を見る限り、当初段階については、育成室全体の問題もあり、児童・保護者の

ニーズを満たしきれていない結果となっているが、年度の後半になるにつれて改善が見られ、年度末のアンケートでは、保育内容全般、クッキング保育とも、良好な運営がなされていると判断できる結果となっている。

【表5】

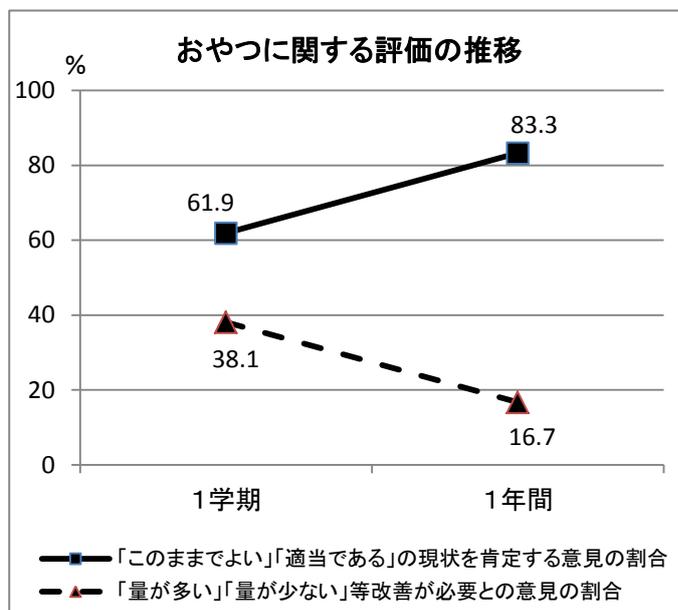


(2) おやつ提供に関する保護者アンケートの結果について

子ども達が育成室で生活をしていくに際して、「おやつ」は楽しみの1つであり、重要なポイントである。また、保護者が就労から帰宅する時間が遅いため、昼食と夕食の間隔が非常に長い児童もいるため、「おやつ」は昼食と夕食の間の時間を埋める重要なものとなっている。

現在の委託事業者によるおやつ提供については、良好な運営ができているが、保護者アンケートの集計からも読み取ることができる。設問がある「1学期利用に関するアンケート」と「1年間を通した利用に関するアンケート」において、年度当初から肯定的な意見も多かったが、年度末には更に高い評価を得ており、「おやつ」等の改善に関する意見も、試行錯誤の結果、年度末に連れて減少している。【表6】

【表6】



(3) 指導員に関する保護者アンケートの結果について

青山台育成室の指導員については、年度末実施の「1年間の利用に関するアンケート」において設問している。回答結果については、【表7】のとおりとなっており、児童や保護者との関わりにおいて、肯定的に評価する意見が80%を越えており、指導員の資質・態度・仕事の取り組みに対する姿勢等については、良好な結果を得ていると判断できる。

【表7】

1年間のアンケートにおける「指導員について」の回答		0	2	4	6	8
ア	児童の相談に乗り、児童の気持ちに寄り沿うことができていた	0				
イ	指導員は児童の輪に入り、積極的に児童と関わりを持っていた	6				
ウ	育成室での出来事を、連絡帳や電話などを使い、保護者に適切に伝えることができていた	6				
エ	表情が暗く、一生懸命仕事に取り組んでいないように感じた	0				
オ	児童と積極的に関わっていないように感じた	0				
カ	危険なことやルール違反には毅然とした態度で、注意をすることができていた	2				
キ	危険なことやルール違反に対して、傍観の姿勢が感じられた	0				
ク	いつも明るく、元気に児童や保護者と接することができていた	1				
ケ	子ども達の気持ちを考えずに、業務を進めている印象を受けた	0				
コ	清掃や整理整頓など、育成室をきれいに保つために努力していると感じることができた	2				
サ	児童のことを丁寧に見ている印象があり、安心感を持つことができた	2				
シ	日常の子ども達の様子を、連絡帳や電話でもっと知らせてほしかった	3				
ス	保護者との距離感があり、気軽に声を掛けづらかった	1				
セ	指導員も子ども達の集団に交じって、楽しんでいるようであった	2				
ソ	その他	0				

※単位は人、1世帯で3つまで選択可能とする

※未回答1あり

※  のグラフ … 肯定的な意見

 のグラフ … 否定的な意見

(4) 児童・保護者の全体的な満足度に関するアンケート結果について

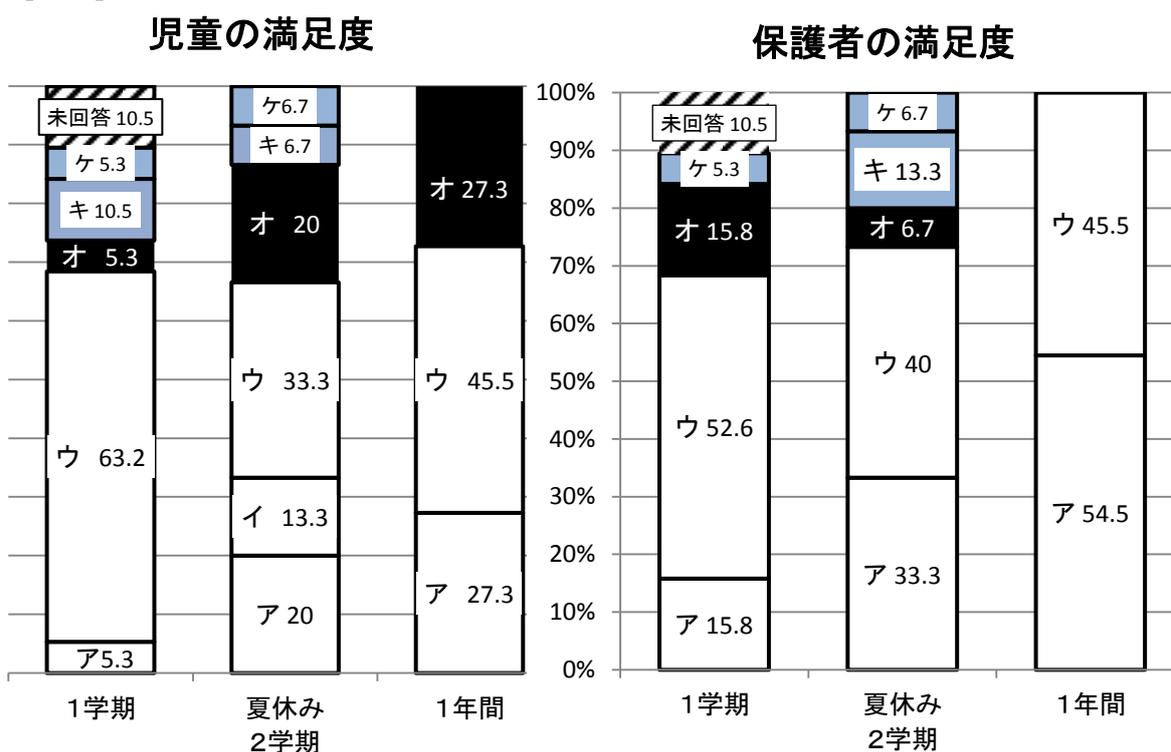
育成室全般について、入室児童がどの程度「楽しい場所となっているか」、及び保護者にとって「どの程度満足できるものとなっているか」を尋ねる質問である。

児童・保護者ともに低い評価については減少しており、3回目のアンケートでは「カ」以降の低い評価は無くなっており、「オ」以上の評価のみとなっている。ただし、児童の満足度に関しては、低い評価がどちらでもないに移行している結果となっており、保育内容が

底上げはできているが、高い評価の割合についての上昇は限定的であると言える。また、非常に高い評価は確実に増えていることから、現在の取り組みの方向性は継続していくべきと考えられる。

保護者の評価については、かなりの改善が見られ、保護者からの支持も着実に増加していることから、現在の取り組みの方向性の継続については、こちらの面からも妥当であると判断できる。【表8】

【表8】



	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	未
保護者	十分満足できる				どちらでもない				不満である	未回答
児童	とても楽しい場所				どちらでもない				つまらない場所	未回答

□ 評価が高い ▣ 評価が低い

7 終わりに

青山台育成室運營業務について、放課後子ども育成課職員による巡回や、保護者アンケートの結果等を用いて検証を行ってきた。現在の委託事業者における運営内容については、当初段階は、上手くいかないところも見られたが、年度の後半になるにつれて改善がなされており、このままの運営方針を維持することによって、良好な運営となっていくことができると考えられる。このことについては、保護者アンケートからも読み取ることができ、

児童、保護者からも高い評価が拡がっていると判断できる。

青山台育成室については、吹田市で初めて直営から、民間事業者による運営となった育成室であり、その面からも運営開始当初は、様々は困難があったものと思われる。今後とも引き続き、保護者、学校、放課後子ども育成課とも連携を密にし、現在の方針の維持を基本としながら、新たな取り組みにも挑戦し、児童にとって楽しい場所となるように、また、保護者にとって安心して子どもを預けることができる場所となるように、運営を行ってほしい。